

●未成年者の喫煙

「未成年者喫煙禁止法」をご存じですか。未成年者はたばこを吸ってはいけないことはよく知られていますが、未成年者へのたばこの販売や、未成年者の喫煙を黙認した場合も罰せられるという法律です。

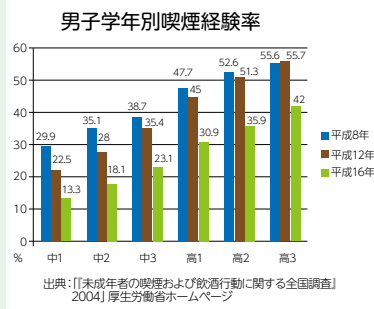
我が国の喫煙率は、全体では減少傾向にあります。しかし男子中高生でみると、中学1年男子の13%、高校3年男子の42%に喫煙の経験があります。

では、なぜ未成年者はたばこを吸ってはいけないのでしょうか？

20歳までのからだは成長期にあたります。成長期の細胞は、刺激に敏感でいろいろな物質を受け入れやすい状態です。そのためたばこの発がん物質からも影響を受け、それががんの元になりやすくと考えられます。特に肺がんでは非喫煙者に比べて10代でたばこを吸い始めた人の死亡率が5.5倍にもなります。また、吸い始める年齢が若いほどニコチンへの依存度が強くなるという報告もあります。

たばこの害はがんだけではなく、たばこを吸うと脳の働きや皮膚、胃、肺の血液の流れが悪くなり、心臓の負担が大きくなります。そのため持久力がなくなり、体力も衰えて、咳やたんが出たり、息切れしやすくなります。さらに思考力・学習効率の低下につながり、口臭や歯周病、皮膚の老化を促進させ、しわの原因にもなります。

未成年者の喫煙動機は「好奇心」や「なんとなく」が多く、喫煙行動には友人、親兄弟、教師などの喫煙と密接な関係があります。身近なところにたばこがあることで、最初は好奇心でちょっとだけのつもりが1本が、やめられない依存の始まりになるのです。未成年者の喫煙は周りの大人も気を付け、絶対止めるようにしましょう。



■透析療法の選択



川口市立医療センター

もり した まさ みつ  
内科 医師 森下 将充

現在、慢性腎臓病の患者数は増加傾向をたどり、適切な治療にもかかわらず透析もしくは腎移植が必要になる末期腎不全の患者数も増加しています。

今回は透析療法の選択に関して、お話ししましょう。透析療法には血液を人工膜に通して透析を行う血液透析と、ご自身の腹膜を介して透析を行う腹膜透析があります。日本では血液透析の施設が多く、また質の高い血液透析が提供可能なため全透析患者の約95%が血液透析を選択されています。一方で腹膜透析は一般的に認知度が低いと思われるが、血液透析に比べ良い点もあり、簡単にそれぞれの特徴をあげてみると

血液透析

- ・一回4時間の透析を週3回受ける必要がある。
- ・透析を行うため血管の手術が必要、その後も透析の度に血管に針を刺す必要がある。
- ・透析を受けている時間以外は食事や内服管理を除いて、特にご自身で行うことはない。

腹膜透析

- ・毎日行う必要があるが、一日かけてゆっくりと透析を行うため体への負担が少ない。
  - ・腹腔内にカテーテルを挿入する手術が必要だが、その後は透析液の交換で透析が行える。
  - ・生活習慣に合わせて透析を行う事ができるため時間を有効に使え、社会復帰も容易。
  - ・透析液のバッグ交換など、ご自身もしくは介護者にある程度の手技習得が求められる。
- 以上のように、腹膜透析にも利点は多く、ケースによっては積極的に腹膜透析が勧められる場合もあります。透析療法・腎移植に関して末期腎不全に至る前に主治医と相談することをお勧めします。

小さな穴があげられた筒の中は、たくさん色が輝く無限の世界が広がる。1816年、スコットランドの物理学者が発明したカレイドスコップ（万華鏡）。その広がる無限の世界は人をひきつけてやまない。

万華鏡の魅力に魅せられたのは40歳のとき。家族旅行で行ったハワイ・マウイ島で、偶然立ち寄ったアートブティックだった。美しいガラスの円盤がついた真鍮製の筒。店主に勧められ覗くと、見たこともない美しい光が広がっていた。気がついたときには思わず購入していた。「これがコレクションの始まりだよ」と無邪気な笑顔で振り返る。

それ以来、出かけたときに万華鏡を探し、これは！と思うものを購入する。20年間のコレクションは2千点を超える。

万華鏡の不思議の前に、発明者の足跡をたどりスコットランドへ行った。生み出された空気を肌で感じ、200年の歴史をささむ万華鏡の不思議がさらに深まった。

鏡の反射と光が作り出す無限のアート。パリエーションで変化するそのおもしろさをい



輝く感動を伝えたい

いろいろな人に知ってもらいたいと渋谷の自社の一角に平成10年、世界一小さく日本一楽しい万華鏡博物館を開館。昨年、自分のふるさと川口に移転した。ゆとりある時間を楽しんでもらえるように予約制とし、館長自ら解説する。

ただ見るだけではなく、世界でたった1つだけの万華鏡を作る。夏休みの自由研究などで訪れる子どもたちが、自分で作ったものを覗くと「ワオー！」と驚くその姿は楽しみのひとつだ。

科学とアートとおもちゃの要素をもつ万華鏡。直接見てもらい、メカニズムを学び、自分の手で作る。万華鏡から得られる感動をこれからも伝えていき続けたい」と意気込む。その瞳は、まるで万華鏡のように輝いている。

(ま)



日本万華鏡博物館館長  
大熊 進一さん  
(幸町2)

ドロボウは開けっ放し 防犯を狙っています

市内では、平成24年中に侵入盗被害が648件発生し、前年に比べて68件も増加しました。

県内では、住宅対象の侵入盗(空き巣・忍び込みなど)が4,392件発生し、そのうち約4割が無施錠の玄関や窓から侵入されています。

特に、夜間就寝時などの「忍び込み」被害では、約7割が無施錠でした。

大切な財産を守るための防犯対策

- ・長時間の外出の際は、戸締りを念入りにチェックしましょう。
- ・浴室やトイレ、格子のある窓にもしっかり鍵を掛けましょう。
- ・ゴミ出しなど、短時間の外出時でもしっかり戸締りしましょう。
- ・郵便ポストや植木鉢の下などに鍵を置くのはやめましょう。
- ・就寝前には、戸締りチェックを心掛けましょう。
- ・窓の下に、足場になる物を置くのはやめましょう。
- ・窓には、防犯フィルムを貼ったり、補助錠を付けましょう。
- ・玄関や勝手口にも、2つ以上の鍵を付けましょう。
- ・庭木の剪定など、周囲からの見通しや明るさを確保しましょう。
- ・センサーライトや防犯カメラなどを設置しましょう。

防犯対策室 ☎048-242-6361